

「保育所見学学内実習」の実践と学び 2

小川 美由紀¹ ・ 久松 尚美¹ ・ 小澤 拓大¹

Practice and Learning of On-Campus Practice at a Nursery School Vol 2

Miyuki OGAWA ・ Naomi HISAMATSU ・ Takuhiro OZAWA

I 「保育所見学実習」の位置付けと学内実習実施の経緯

本学では、保育実習指導 I の一環として 1 年次 6 月上旬に「保育所見学実習」を実施している。これは、宮崎県内約 40 園の保育所または幼保連携型認定こども園に依頼し、一日の見学実習を行うものである。学生は 5~8 名で初めて保育現場に出向き、実際に子どもの様子を観察したり、保育者の援助や保育環境について学んだりする。保育所見学実習の主な目的は、「子どもと関わる楽しさや保育士の仕事のやりがいについて知り、保育者を目指す意識を明確にする」と「夏季休業期間の体験実習にむけて、観察・参加実習の方法について理解する」の 2 つである。保育所見学実習は、入学直後の学生が、改めて保育者を目指す意識を明確にできる機会であることはもちろん、図 1 の本学 2 年間の実習フローチャートに示すように、これから 2 年間で履修する各種実習に向けての事前準備を実践的に理解するという点でも、非常に重要な意味を持つ。しかし昨年度来のコロナ禍により、令和 2 年度及び令和 3 年度の保育所見学実習は中止を余儀なくされた。それでも、この見学実習は保育科 1 年生にとって“保育現場を知る”第 1 歩としての極めて重要な機会であるため、筆者らは、実習に臨むために必要な事前準備や保育現場の臨場感を、映像から学べる機会を設けたいと考え、学内実習に切り替えて学生への指導を実施した。

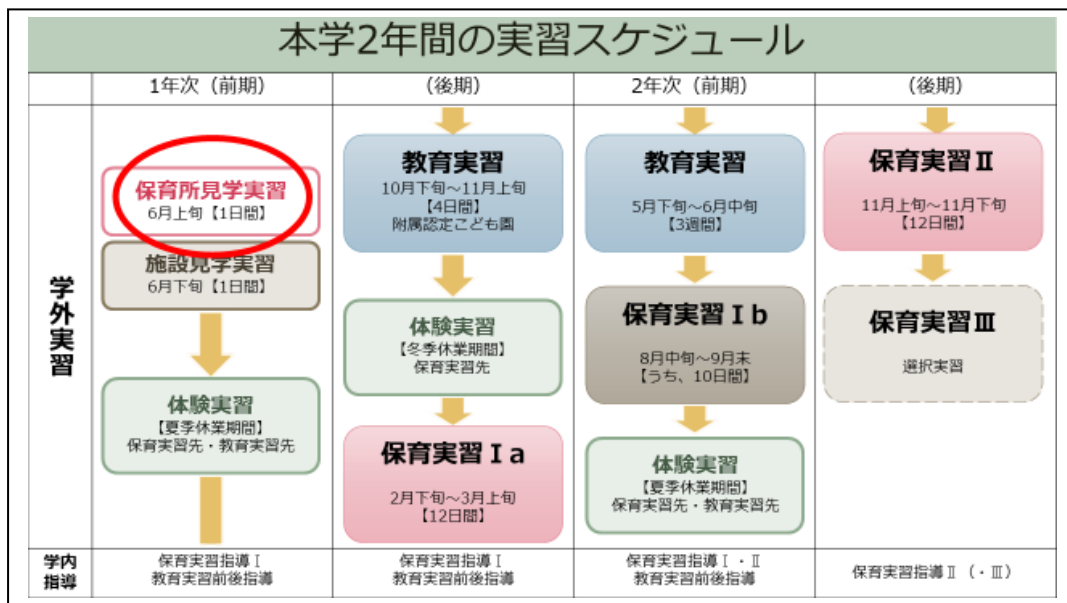


図 1. 本学 2 年間の実習フローチャート

1 宮崎学園短期大学

1 令和2年度「保育所見学学内実習」の実施内容

昨年度（令和2年度）に実施した保育所見学学内実習においては、筆者を含む実習担当教員が協力園 A 園に訪問し、主に室内の保育環境として保育室、乳児室、ほふく室、調乳室、沐浴槽や園児用トイレ、ランチルーム等を写真撮影した。協力園 B 園では、主に保育内容について3歳以上児クラスと3歳未満児クラスの生活・遊びの様子を、B 園のデイリープログラムに沿って写真・ビデオ撮影を行った。現場に出向く見学実習では終日実施となるが、学内指導では「見学実習の一日の流れと保育環境の実際」と「保育内容の実際」として、実務家教員でもある第一著者がスライドや写真、映像を用いて指導を行った。保育内容の映像は、以上児・未満児ともにそれぞれ45分程度に編集し、年齢別に学生が観察することで模擬見学を実現した。

また学内実習の振り返りとして、映像の観察を通して学生が感じた疑問をアンケート方式にて募り、集約したものを後日 B 園にメールで送付し、回答を学生にフィードバックをすることで、現場との質疑応答を実現した。これらの一連の学内実習の効果については、小川・久松（2021）によって認められている¹⁾。

2 令和3年度「保育所見学学内実習」の実施内容

今年度（令和3年度）においても、5～8名の学生集団が保育現場に行くことによるリスクを鑑み、保育所見学実習は中止とし、昨年度に引き続き学内実習を行うこととした。本学はゴールデンウィーク以降、遠隔授業期間となったため、Zoom を使用して学生に事前指導を行った。また昨年度の実施内容を見直し、コマ数も1つ増やして新たに「保育所見学学内実習振り返り」の時間を設け、映像を通じた保育所見学実習であってもその目的がより果たせるよう、改善を加え実施した。

（1）事前指導（令和3年5月12日、19日、26日、6月2日）

従来の保育所見学実習では、事前準備として次の2点を実施して臨むよう指導している。まずは、見学実習先の概要を理解することである。これは、実習先の保育目標や保育方針などを事前に調べ、実習先について十分に理解した上で見学実習に臨むことをねらいとしている。2点目は、子どもたちの前で発表する機会を得て、部分保育を実施するための準備と練習をすることである。これは、授業等で学んだ手遊び歌、絵本や紙芝居、簡単なゲーム等、配当クラスに応じた保育内容を考え、事前にグループや個人で練習して見学実習に臨むことをねらいとしている。先述したように、今年度の見学実習では実際の現場に出向くことは叶わないが、これから迎える本実習に向けての基本的な事前準備として経験することの大切さを鑑み、事前準備も予定通り進めていくこととした。

以下に、令和3年度の「保育所見学学内実習実施計画」から、事前指導のスケジュールを表1に示す。まず筆者らは、見学実習先の概要を理解するための事前準備として、1年生6クラス（約30名ずつ）をそれぞれのクラス内でさらに6グループに分け、映像提供園であるB園、C園、D園のいずれかに見学実習へ行くと仮定し、その園の概要についてホームページ等をもとに調べる実践演習（グループワーク）を行った。このことは、のちにB園の“模擬見学”を行うという点において従来の目的と一致するとともに、今後の実習において実習先の概要を調べることから全体的な実習準備が始まっていくということ、実践的に理解する演習であったといえる。

次に、実習先の子どもたちの前で部分保育を発表するための事前準備の一つとして、絵本を用いた「読み聞かせ実践演習」を実施した。「読み聞かせ実践演習1」では、実務家教員でもある第

一著者が、模擬演習として実際に絵本の読み聞かせを行った。読んだ絵本は『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』²⁾である。絵本の持ち方を伝える際に、大講義室での一斉授業の形式では後部座席の学生に細かく持ち方を伝えることに限界があるが、Zoom 配信になったことにより、学生は準備した絵本の持ち方やめくり方を画面越しに確認し、実践していた。また「読み聞かせ実践演習 2」では、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いてグループワークを行った。5～6人のメンバーで交代し、画面越しに読み聞かせの実践を行った。これらの演習では互いに保育者役・子ども役として読み聞かせを行ったため、実際に“子どもたちの前で発表する機会を得る”ということはできなくとも、実践演習としては効果的であったといえる。

表 1. 令和 3 年度「保育所見学学内実習」実施計画：事前指導の部分を抜粋

日 時	内 容	担 当	実施方法
5/12 (水) 3 限目	○保育所見学学内実習メンバー決め	主担当：小川 1 年学級主任	YouTube ライブ配信 ⇒ クラス別 Zoom
5/19 (水) 3 限目	○保育所見学学内実習について ○実習に臨む服装・容儀について	主担当：小川	Zoom
5/26 (水) 3 限目	○「保育所見学学内実習」事前準備シートの記入 ○読み聞かせ実践演習 1 ○読み聞かせ実践演習 2 (グループワーク)	主担当：小川 1 年学級主任	Zoom
6/2 (水) 3 限目	○保育所見学学内実習前指導 ・個人情報保護に関する指導 ○DVD視聴 ○読み聞かせの実践演習 3	個人情報担当 主担当：小川 1 年学級主任	Zoom
6/4 (金) 1～3 限目	保育所見学学内実習 ・保育園の一日	主担当：小川	Zoom

最後に、従来の保育所見学実習における事前打ち合わせについて着目したい。本学の『実習の手引き』によると「実習の事前打ち合わせは、本来、班メンバー全員で、実習先に出向いて行うべきものである」³⁾としている。しかし見学実習に関しては、1つの園に出向く学生数も多く、実習先への負担になる可能性があるため、メンバーを代表して、全体リーダーが電話で事前打ち合わせを行っている。ただし、実習先から「直接来てほしい」と言われた場合には、訪問して打ち合わせを行うこととしている。

学生にとって保育現場は、将来の職場ともいえる場である。これからの 2 年間、実習先とのやりとりは原則学生自身が行っていかなければならないが、メールや SNS でのやりとりが主要な通信方法となっている学生の中には、電話で話すことが苦手で、どのような敬語を使えばよいのか分からないといった不安を抱えている学生も少なくない。そこで筆者らは、令和 2 年度の事前指導の際に、紙面による電話対応の指導だけでは、実習先に電話をかける際の学生自身の心構えや理解が不十分であることを考慮し、「電話対応の映像」を作成して事前指導を実施した。撮影に

は、本学実習指導課の職員がリーダーの学生役となり、協力園 B 園の主任保育教諭が電話を受けたという想定で、「望ましい例」と「望ましくない例」の 2 パターンの電話でのやりとりを模擬実践し、映像に収めた。この演習を取り入れたことにより、学生は、実習先へ電話する際の留意点や、言葉遣い、メモを取ること、復唱すること等、電話応対に必要な基本的事項を映像から学ぶことができた。

そこで今年度も、昨年度と同様の「電話応対の映像」を使用し、学生には「どちらの方が実習先にとって印象がよいか」を考え、学生自身が電話していることを想定しながら「事前準備シート」へメモをとるという実践形式での指導を実施した。

最後に、学内実習当日は、学生が 3 コマの学びを時系列で整理しやすいよう「令和 3 年度保育実習指導 I 保育所見学学内実習(ワークシート)」として 9 ページ分の演習シートを用意した。

(2) 協力園との連携・協働

協力園 A 園の「朝の出勤時」と「オリエンテーション」の動画及び写真、協力園 B 園の「園の保育方針・保育目標」、「保育実践の内容と保育の特徴」、「園での新型コロナウイルス感染症対策」、「3 歳未満児の生活・遊び」、「3 歳以上児の生活・遊び」の映像については、引き続き使用した。

これらは令和 2 年 5 月に、第一著者が実際に B 園に出向き、ビデオ撮影したものである。図 2 に示すように、B 園のデイリープログラムに沿った撮影スケジュールを立て、普段の保育の流れを止めないよう十分配慮し撮影を進めた。先述したように、見学実習は、子どもたちと積極的に関わることや現場の先生の子どもへの言葉かけ、働きかけを観察する機会である。そのため撮影時には、実習生としての目線を意識しながら撮ること、保育者と子どもたちの関わりが見られている部分には焦点を当てて観察できるようズーム機能等を使い工夫して撮影を行った。特に 3 歳未満児においては、撮影者との距離が近すぎると、人見知りをしたり、不安な気持ちになってしまう子どもがいたりすることを予想し、3~4 メートルほどの距離感を保ちながら撮影した。3 歳以上児についてもできるだけ普段どおりの子どもと保育者の関わりが見られるよう配慮した。一方で、子どもたちが撮影者に話しかけてきた際には、言葉や思いを受容した声かけ・応対することに留意して、撮影を行った。

【撮影スケジュール】 * 保育の流れを止めないよう十分配慮しながら撮影をさせていただきます。
* このスケジュールはあくまでも目安です。園機応変に対応させていただきますので、指示、お声掛け、ご連絡なくいただければ幸いです。

8:00前 訪問(車1台で伺います)			8:00前 訪問(車1台で伺います)		
時間	子どもの活動	3歳未満児	時間	子どもの活動	3歳以上児
順次	登園 検温 順次おむつ交換・排泄	撮影 (各クラス)	順次	登園 所持品の始末	撮影 (各クラス)
8:00	好きなあそび	撮影 (1歳児)	8:00	(晴)運動あそび (雨)室内・ホールあそび	撮影 (各クラス)
8:50	手洗い	撮影	9:00	雑巾がけ	撮影 (5歳児)
9:00	*あいうべ体操 朝のおやつ	撮影 (2歳児)	9:15	リズムあそび	撮影 (各クラス)
9:30	主活動とつむぎ体操	撮影 (0歳児)	10:00	主活動 a組…アサガオ植え b組…泥団子づくり c組…泥んこあそび	撮影 (各クラス)
10:00	主活動とリズムあそび	撮影 (1~2歳児)	11:30	昼食準備(お当番)	撮影 (5歳児)
11:00	排泄・手洗い	撮影	11:50	昼食	撮影 (4歳児)
11:15	離乳食	撮影	12:40	排泄 替替え	撮影 (4歳児)
11:20	昼食	撮影 (各クラス)	13:00	午睡	撮影 (ホール) ※午睡中の先生方の様子
12:00	排泄・替替え	撮影	14:00	起床 排泄・替替え	撮影 (3歳児)
12:00	入眠(0・1歳児)	撮影	14:55	ちょこっと遊び	撮影 (4歳児)
12:20	入眠(2歳児)	撮影 (各クラス) ※午睡中の先生方の様子	15:00	*あいうべ体操 おやつ	撮影 (3歳児)
14:15	起床(2歳児)	撮影	15:20	おやつ終了 絵本を見る 降園準備	撮影 (3歳児)
14:30	起床(0・1歳児) おむつ交換・替替え	撮影 (1歳児)	16:00	園庭or室内あそび 順次降園	撮影 (各クラス)
15:00	*あいうべ体操 おやつ	撮影 (2歳児)			
16:00	園庭散歩(0・1歳児) コーナーあそび(2歳児)	撮影 (各クラス)			
~17:00					

図 2. 撮影スケジュール (令和 2 年 5 月)

今年度新たに協力を得た C 園では、主に「保育環境の実際」として写真及び動画撮影を実施した。C 園は市の中心地に近く“街の中にある園”といったイメージである。撮影した場所としては、外観、園庭、玄関～テラス、保育室、乳児室、ほふく室、調乳室、沐浴室、園児用トイレ等であった。また、3 歳以上児が登園後にシールを貼る場所やテラスなどの共有場所の撮影も意識して行った。これはのちの指導の際に、学生自身がそれぞれの環境についてどのような目的で設定されている場所なのか、用途や意味を考えながら模擬見学を行えることを意図したものである。

もう一つの協力園 D 園は、周りを自然に囲まれた立地で敷地も広く“森の中にある園”といったイメージである。特に園庭が魅力的で、思わず遊びだしたくなる仕掛けが散りばめられている。そんな D 園では、主に園庭で子どもたちが遊ぶ様子を写真で撮影した。

(3) 保育所見学学内実習（令和 3 年 6 月 4 日）

前述した新たな協力園 C 園と D 園での写真及び動画撮影と、その編集作業等を経て「保育所見学学内実習」を実施した。学生の登学は可能となったが、三密を避けるため、6 クラス約 30 名がそれぞれ定員 50 名の教室に分かれた。3 コマの学内実習を進めていく第一著者も、学生との対面はせず、本学の実習指導室から Zoom による配信にて指導を実施した。日程表を図 3 に示す。

令和 3 年度 保育実習指導 I：保育所見学学内実習												
1. 日 時	令和 3 年 6 月 4 日（金） 1～3 限目	※ 対面にて実施										
2. 場 所	実習指導室より Zoom 配信 ※ 以下の教室より、35 教室 URL にアクセスしてください。 A：11 教室 B：12 教室 C：13 教室 D：14 教室 E：15 教室 F：16 教室											
3. 日 程	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時 間</th> <th>内 容</th> <th>担 当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 限目</td> <td> 見学実習の一日の流れと保育環境の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問時の挨拶 ・ オリエンテーションについて（説明） ・ 反省会について（説明） ・ 保育環境（主に物的環境）の実際 </td> <td rowspan="3"> 小川 ※ 状況に応じて 学級主任・副主任の先生方、 フォローを お願いします。 </td> </tr> <tr> <td>2 限目</td> <td> 保育内容の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像による見学実習 （前半：3 歳未満児の生活・遊び ／後半：3 歳以上児の生活・遊び） </td> </tr> <tr> <td>3 限目</td> <td> 「保育所見学学内実習」振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ B 園とリモート（Zoom）でつながり、質疑応答にて学びを深める。 </td> </tr> </tbody> </table>		時 間	内 容	担 当	1 限目	見学実習の一日の流れと保育環境の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問時の挨拶 ・ オリエンテーションについて（説明） ・ 反省会について（説明） ・ 保育環境（主に物的環境）の実際 	小川 ※ 状況に応じて 学級主任・副主任の先生方、 フォローを お願いします。	2 限目	保育内容の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像による見学実習 （前半：3 歳未満児の生活・遊び ／後半：3 歳以上児の生活・遊び） 	3 限目	「保育所見学学内実習」振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ B 園とリモート（Zoom）でつながり、質疑応答にて学びを深める。
時 間	内 容	担 当										
1 限目	見学実習の一日の流れと保育環境の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問時の挨拶 ・ オリエンテーションについて（説明） ・ 反省会について（説明） ・ 保育環境（主に物的環境）の実際 	小川 ※ 状況に応じて 学級主任・副主任の先生方、 フォローを お願いします。										
2 限目	保育内容の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像による見学実習 （前半：3 歳未満児の生活・遊び ／後半：3 歳以上児の生活・遊び） 											
3 限目	「保育所見学学内実習」振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ B 園とリモート（Zoom）でつながり、質疑応答にて学びを深める。 											

図 3. 令和 3 年度「保育所見学学内実習」 日程表

1 限目：見学実習の一日の流れと保育環境の実際

本来の見学実習では、①保育所の役割、保育方針などと共に、保育を参観するポイントと実習中の留意事項について、施設長や園長もしくは主任（主幹）保育士・保育教諭から説明を受ける「オリエンテーション」、②子どもたちと積極的に関わり、先生方の子どもへの働きかけを観察したり、先生方の指示に従って手伝ったりするなどの「年齢別・クラス別での見学実習」、③一日の見学実習を通して感じたことや、分からなかったことなどを発表し、それについて施設長や園長、主任（主幹）保育士・保育教諭やクラス担当の先生から助言をもらう「反省会」という流れになっている。そのため、これら3つの一連の流れを学生が体感できるように、事前に撮影した写真や映像、スライドを用いて指導を進めていった。

まずは朝の出勤時、玄関で挨拶を行う映像を2パターン視聴した。服装、身だしなみから清潔感や明るさを感じられるパターンとそうでないものとは、どちらが第一印象がよいか等、学生自身に考えさせられるようにした。朝のオリエンテーション場面では、実際にA園の主任保育教諭が実習生に話をしている写真を提示し、園の保育方針や保育を参観する際のポイントや留意事項についての説明場面がイメージできるようにした。

次にC園の写真・動画を用いて「保育環境の実際」として指導を行った。学生が体験的に理解しやすいよう、「門扉を入ると、木製のアスレチックが見えてきて・・・」というように、実際に歩いて見える視点で作成したスライドを使用した。撮影場所から見渡せるアングルで、保護者連絡用のドキュメンテーション型掲示板や園庭の様子も紹介した。玄関から室内に入り、季節感ある装飾、全園児の誕生表、金魚の水槽、共有部分に設置されているAED、さらには3歳以上児が登園してシールを貼る場所や連絡帳を入れるカゴ、与薬依頼書を入れるポストなど、学生が些細な環境構成にも目を向けられるように問いかけていった。続いて園舎の1階部分にある1歳児保育室、2歳児保育室、1～2歳児用トイレ・沐浴室、3歳以上児トイレ、0歳児保育室、調乳室、0歳児用トイレ・沐浴室等を順に“模擬見学”した。調乳室や便洗いの場面では、それぞれにエプロンを付け替える理由を考える時間も設け、補足等を行った。2階部分では、調理室、3歳児保育室、手洗い場、4歳児保育室、3～4歳児用トイレ、テラス等を観察した。C園の2階テラスには、災害時に避難する際に使う子どもサイズのサンダルが多数並べてあったため、その用途を直接伝えるのではなく、「何のために並べてあるのか？」というように、その準備の意味を考える質問を設けた。このように、ただ模擬見学するのではなく、見学しながらも学生自身が人的環境や物的環境を“観察する”という視点をもてるよう工夫を行った。最後に5歳児クラスを模擬見学した。季節を捉えた製作物や、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を意識したコーナーなど、年長児クラスならではの環境構成の工夫にも気付けるようにした。終わりには、C園の保育教諭2名からの学生に向けたメッセージを発信した。1名は男性保育教諭、1名は本学卒業生であったため、学生にとっては保育者を目指す意志を明確にするという点で親しみやすい機会だったと考える。

最後はD園の写真・動画を用いて、引き続き「保育環境の実際」として指導を行った。当日はD園の園長先生がZoomで参加していたため、園長から直接学生に保育環境づくりへの思いや魅力を語ってもらった。学生の使用するワークシートには、園庭や室内の魅力ある環境を模擬見学することで見えてくる率直な思いを、“子どもの気持ちになって”書き留めるよう伝えた。学生はD園の魅力ある環境と、園長から語られる保護者とともにやる環境づくりへの思いに引き込まれ、熱心に聞いている様子であった。終わりには園長から、これから保育者を目指す学生へのメッセージが送られ、1限目は終了した。

2 限目：保育内容の実際

前半に3歳未満児の生活・遊び、後半に3歳以上児の生活・遊びの様子を、映像による“模擬見学”として行った。引き続き、学生が“観察する”ということに重点を置くべく、説明しすぎないことを意識して指導を進めた。実際に保育現場にいると想定しながら、演習シートにそれぞれの場면을観察できるよう「子どもたちの表情、声、様子」「先生方の動き、声掛け、援助」について“見たまま、感じたまま、ありのまま、書き留めよう！”とし、メモの時間も適宜設けながら進めた。また昨年度はメール送付にて行った質疑応答について、今年度はZoomでB園とリアルタイムでつながり、学生が直接、保育者に質疑応答できるような環境を新たに整えた。このことを学生にも伝え、疑問に思ったことは書き留めておくよう伝えた。B園の先生方には、ちょうど午睡の時間となる3限目の時間帯に学生からの質問に直接応答してもらうこととした。

3 限目：「保育所見学学内実習」振り返り

B園の園長と3歳未満児クラス代表の先生、昨年度の3歳児クラス担任、4歳児クラス担任、5歳児クラス担任の先生方がZoomにてリモート出演し、学生との質疑応答を行った。学生はまずグループごとに質問を1つに絞り、クラスで5～6つの質問項目を考えた。順に1クラスずつ、直接B園の先生方に質問を行った。なかでも、3歳児クラスの主活動「泥団子作り」の際に、子ども同士がトラブルを起こす場面があり、その時の保育者の対応について質問したいという内容が多かった。図4はその時のやりとりの様子である。学生は目の前で突発的に起こる子ども同士のトラブルを目にした際、どうしても「自分自身が仲裁して、解決させなければいけない」と思ってしまう。しかし子どもには、子ども同士の関わりの中でしか経験できない感情や葛藤があり、自己主張をしながらも他者の気持ちに気付き、互いの思いを知ることで社会性を身につけていく過程を考えると、トラブルの場は必ずしも排除しなければならないものではなく、人的環境としての保育者の役割として、この担任の先生のように子ども同士が成長する場であると捉え、「見守る」「待つ」という姿勢も子どもにとっては、非常に重要な関わり方であるといえる。

最後にB園の先生方と園長から、これから保育者を目指す学生に向けて直接メッセージが送られた。保育者としてのやりがい、保育の楽しさ、大変さなど、現場にいるからこそ感じる生の声を学生に届けてもらったこの体験は、入学間もない学生にとって子どもと関わる楽しさや保育という仕事のやりがいを改めて考える機会にもなったのではないかと考える。

II 今年度の「保育所見学学内実習」の効果検証

上記のとおり、今年度の保育所見学学内実習は、令和2年度の実施内容に改善を加え実施した。本節では、今年度の保育所見学学内実習が及ぼした学生の学びについて検証する。具体的には、①保育所見学実習の主な目的である「子どもと関わる楽しさや保育士の仕事のやりがいについて知り、保育者を目指す意識を明確にする」と「夏季休業期間の体験実習にむけて、観察・参加実習の方法について理解する」が達成できていたか（「保育所見学実習」の目的達成度）、②保育所見学学内実習での学びが実習指導以外の授業に対しても有効であったか（「保育所見学学内実習」での学びが実習指導以外の授業へ及ぼした効果）、という2つの観点から検証する。

1 調査対象

令和3年度「保育所見学学内実習」参加者187名（回答者数：168名・回答率：89.8%）

2 調査方法

Google Forms を用い、無記名式にて実施。

3 調査内容

入力フォームの冒頭にアンケート調査の同意確認を設け、その後、保育所見学学内実習に関する4件法によって評定する9項目と、保育所見学学内実習での学びがその後の実習においてどのように活かされたかを自由記述できる項目を設けた。9項目の質問については、表2のとおりである。表2の②の質問項目は、保育所見学学内実習での学びが保育現場を知らない入学直後の学生にとって、本学の実習指導以外の授業で扱われる子どもの発達や環境構成、保育者の姿をイメージしやすくなることへの波及効果も期待されていることから設定した。

表2. 映像による「保育所見学学内実習」に関わるアンケート調査：質問項目

検証の観点	質問項目
① 「保育所見学実習」の目的達成度	1. 保育所見学学内実習を通して子どもと関わる楽しさや保育士の仕事のやりがいについて、理解できた ※図5では「①子どもと関わる楽しさ・仕事のやりがいの理解」に対応
	2. 実際に現場に行くことはできなかったが、映像を通して保育者を目指す意識を明確にできた ※図5では「②保育士を目指す意識の明確化」に対応
	3. 映像を通して保育所見学実習の一日の流れ（訪問・オリエンテーション・保育の観察・反省会）を疑似体験できた ※図5では「③保育所見学実習の疑似体験」に対応
	4. 実習に向かうまでの事前準備（例：実習先の概要を調べる、手遊び歌や絵本の読み聞かせなどを準備する）が理解できた ※図5では「④事前準備の理解」に対応
② 実習指導以外の授業へ及ぼした効果 「保育所見学学内実習」での学びが	5. 授業で扱われる保育所・認定こども園での子どもの活動（例：朝の会・主活動・午睡）がイメージしやすくなった ※図6では「⑤子どもの活動がイメージしやすくなった」に対応
	6. 子どもの発達過程（3歳以上児、3歳未満児の実際の姿）を把握したことで、授業において子どもの姿をイメージしやすくなった ※図6では「⑥子どもの姿をイメージしやすくなった」に対応
	7. 園における環境および環境構成の方法を把握したことで、授業において具体的に環境構成について考えやすくなった ※図6では「⑦環境構成について考えやすくなった」に対応
	8. 保育者の実際の声掛けや行動を把握したことで、授業において保育者の姿をイメージしやすくなった ※図6では「⑧保育者の姿をイメージしやすくなった」に対応
	9. 授業において様々な事例を検討するにあたり、現場の保育者からのアドバイスが役に立った ※図6では「⑨現場の先生からのアドバイスが役に立った」に対応

4 調査時期

令和3年10月11日～14日

5 倫理的配慮

対象者には、本研究の目的および調査協力への依頼を口頭にて行うとともに、入力フォームにも、本調査への協力に同意した場合のみ回答・提出（送信）すること及び回答内容は、成績には全く反映されないこと等を記載した。個人情報とプライバシーの保障において、本調査は無記名式にて実施し、個人が特定されないよう配慮することが説明された。なお本研究は、宮崎学園短期大学研究倫理審査会にて承認を受けている（承認番号：2021009）。

6 結果と考察

(1) 「保育所見学実習」の目的達成度

質問項目 1～4 の各回答の割合（%）を算出した（図 5）。まず保育所見学実習の目的でもある「①子どもと関わる楽しさ・仕事のやりがいの理解」については、「あてはまる 31.5%（53 名）」、「とてもあてはまる 54.2%（91 名）」という結果であった。また「②保育者を目指す意識の明確化」については、「あてはまる 39.9%（67 名）」、「とてもあてはまる 44.6%（75 名）」という結果であった。このことから、保育所見学実習の主な目的である「子どもと関わる楽しさや保育士の仕事のやりがいについて知り、保育者を目指す意識を明確にする」ということについては、概ね達成できたといえる。

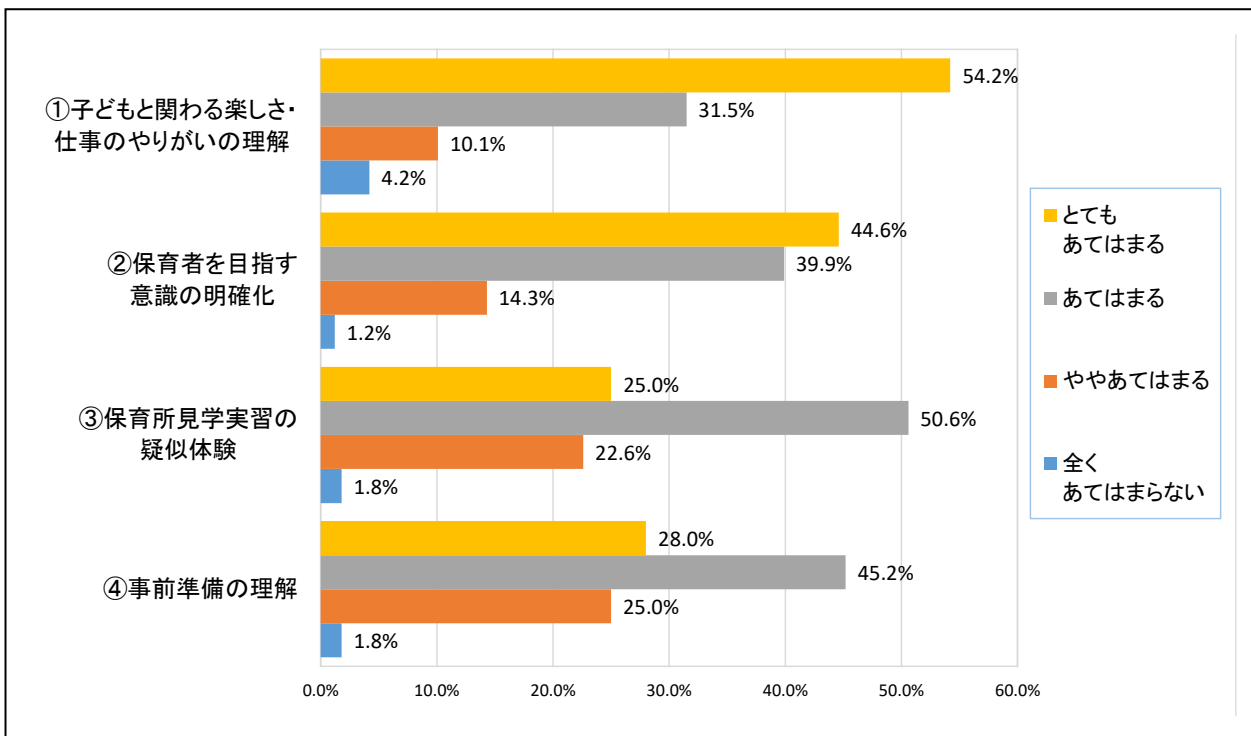


図 5. 「保育所見学実習」の目的達成

また「③保育所見学実習の疑似体験」については、「あてはまる 50.6%（85 名）」、「とてもあてはまる 25.0%（42 名）」という結果であった。これは筆者らが目指した、実習に臨むために必要な事前準備や保育現場の臨場感を、映像から学べる機会を設けたいとしたねらいが果たせたといえる結果であった。さらに「④事前準備の理解」については、「あてはまる 45.2%（76 名）」、「とてもあてはまる 28.0%（47 名）」という結果であった。これは保育所見学実習のもう一つの目的である「夏季休業期間の体験実習にむけて、観察・参加実習の方法について理解する」ということにつながったかどうかを検証する項目であったが、コロナ禍で今年度の夏季休業中の体験実習

は中止となった。しかし、保育実習 I a・II 内諾のお礼を兼ねた実習先訪問については実施し、その方法も直接訪問または電話による挨拶となった。いずれの学生も、訪問日時 of 約束等で実習先へ電話を掛ける際には、保育所見学実習の事前指導として実施した「電話対応の映像」が役立ったのではないかと考えている。

以上のことから、保育所見学実習が学内実習となっても、主な目的はおおよそ達成できたといえる。

(2) 実習指導以外の授業への効果

質問項目 5～9 の各回答の割合 (%) を算出した (図 6)。まず実習指導以外の授業において「⑤子どもの活動がイメージしやすくなった」については、「あてはまる 42.3% (71 名)」、「とてもあてはまる 33.9% (57 名)」という結果であった。また「⑥子どもの姿をイメージしやすくなった」については、「あてはまる 44.6% (75 名)」、「とてもあてはまる 28.6% (48 名)」という結果であった。このことは、映像による B 園の“模擬見学”において、園の一日の流れを疑似体験したことにより、朝の会、主活動、午睡といった保育場面が、入学直後の学生にも具体的にイメージできるようになったことを示している。また 3 歳未満児・3 歳以上児の実際の姿を映像により観察できたことは、教科書や参考書だけではイメージしにくい 0～6 歳までの子どもの発達過程を、子どもの具体的な言動から捉えやすくなったと感じていることが分かる。

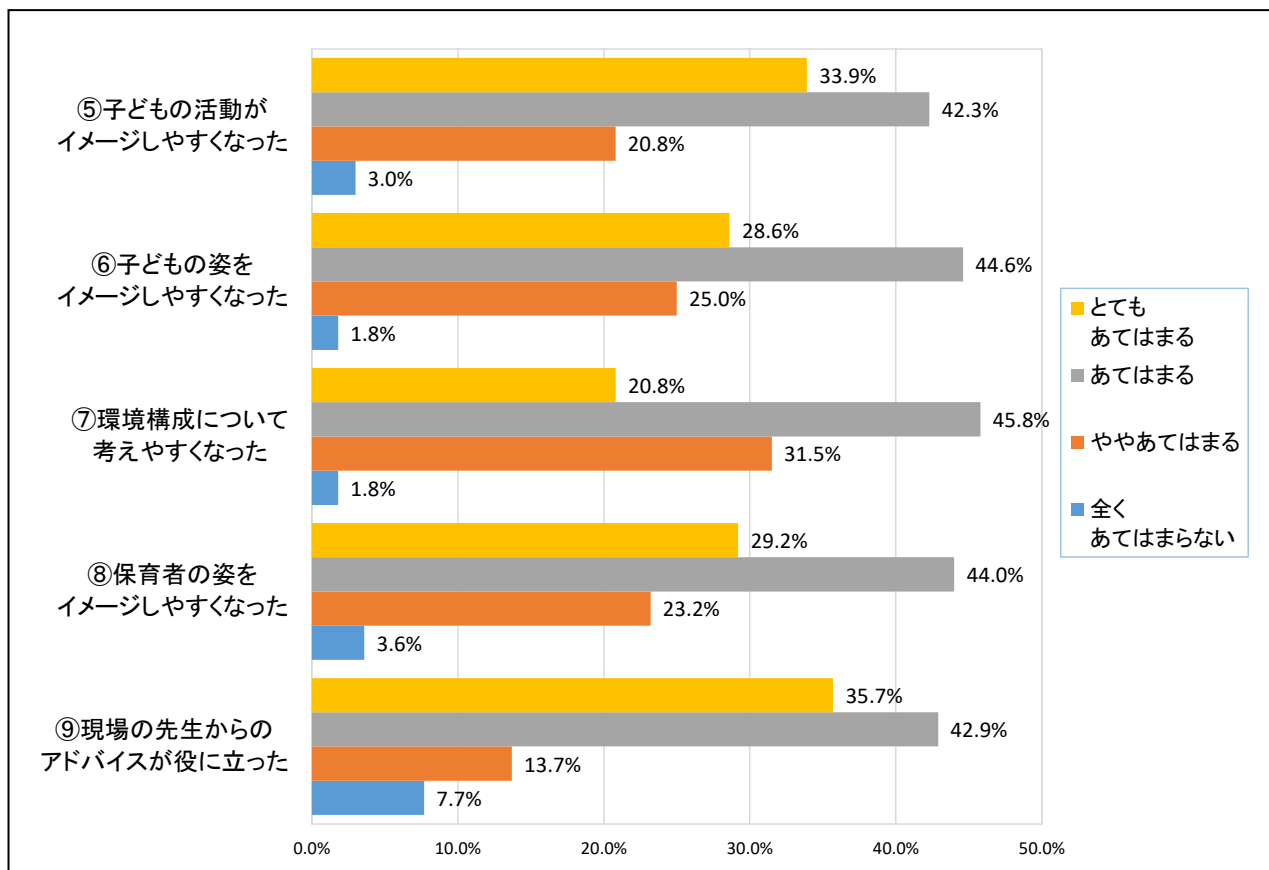


図 6. 実習指導以外の授業への効果

次に「⑦環境構成について考えやすくなった」については、「あてはまる 45.8% (77 名)」、「とてもあてはまる 20.8% (35 名)」という結果であった。これについては約 7 割弱の学生が「考えやすくなった」としているが、今年度新たに協力を得た C 園と D 園の保育環境を写真や動画で観

察したことは、それぞれの園の保育環境の工夫や特徴的な環境づくりを知るという点で、捉えやすかったといえるかもしれない。しかし学生自身が“保育を行うための環境の構成”を実践したわけではないため、映像による疑似体験だけでは、子どもが自ら環境に関わって遊ぶために保育者がどのような環境構成をしているか、というところまでは深められていないとも考えられる。

最後に「⑧保育者の姿をイメージしやすくなった」については、「あてはまる 44.0% (74名)」、「とてもあてはまる 29.2% (49名)」であった。このことから、実際に現場で働く保育者の子どもへの言葉掛けや子どもとの関わりについて映像から観察できたことで、これから保育者を目指す学生にとって非常に大きな学びの体験となったことがうかがえる。また「⑨現場の先生からのアドバイスが役に立った」については「あてはまる 42.9% (72名)」、「とてもあてはまる 35.7% (60名)」であった。これは、質問項目 5～9 の各回答の割合 (%) のなかでも「とてもあてはまる」と答えた学生が最も多かったことから、今年度の保育所見学学内実習において改善した、現場の先生とリアルタイムにつながって行った Zoom による質疑応答の実践効果の表れであるといえる。さらに、この質問を受けての自由記述とした項目「具体的には、どの授業のどんな事例で役に立ちましたか？ 思いつく限り、以下の空欄にお書きください」に関する具体的な記述内容を、表 3 に示す。なお、記述内容には授業名とその具体的事例を記して記載しているものと、具体的な授業ではないが「役に立った」と感じた場面の記載、及び保育所見学学内実習についての感想等も含まれている。この内容からも、学内実習で聞いた現場の先生からのアドバイスが、実習指導以外の授業において様々な事例を検討する際に役立っていることが示された。

このことから、保育所見学学内実習は学内で行われる“実習指導以外の授業”においてもよい影響を及ぼしていることが分かった。

表 3. 自由記述の内容

※誤字と思われる記述の修正・一部表現の変更以外は、基本的に回答の原文のまま記載

具体的 視点	授業名及び役立った内容
子どもの 発達 理解	<p>低年齢児保育 ※授業「低年齢児保育」は「乳児保育」の内容を扱っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇先生が用意して下さった、ご自身のお子さんの成長や発達 ・低年齢児の身体の発達 ・子ども達の成長について ・子どもの発達や特徴について詳しく知ることができた。 ・映像や、写真等で子どもの成長についてよく知ることができた。 <p>教育課程論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な年齢の特徴や主な活動など。
環境 構成	<ul style="list-style-type: none"> ・“水曜日 3、4 限の保育日誌を書く時。現場の雰囲気や様子を知り、環境構成をどのようにするか、イメージしやすかった。” ・低年齢児保育の学習時に、保育園や幼稚園ではどの年齢の子どもにも同じように過ごしやすい綺麗な環境を保育士が作らなければ ならないということ。 ・保育者と保護者が協力して保育環境を作る、巻き込むという事が参考になりました。

表 3. 自由記述の内容（続き）

保育者の援助・配慮	<p>実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮事項を書く時に言われたことなどを書く時に参考にしながら書きました。 <p>低年齢児保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢にあった言葉がけや遊び <p>保育原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの関わりについて学ぶのでその中でアドバイスのことを思い出したりして授業を受け、子どものイメージもできた。 ・参加しない子どもがいた時に、どのような声掛けをしたり、働きかけたりするかを聞いたこと。 ・子ども達への接し方や子どもたちの考えを理解するということ
喧嘩の際の対処	<p>教育心理学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが喧嘩した時 ・子どもが喧嘩をしてしまったときの対応方法 <p>保育原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のいざこざが起こった時の事例 ・喧嘩している時にすぐとめないという保育者からのアドバイスを聞いて、喧嘩してる時どうする？という質問のときに役に立った <p>低年齢児保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが喧嘩した時 ・喧嘩した子どもとの話し合いの仕方など。 ・喧嘩をした際の対処方法など ・お帳面をいつ書くのか、喧嘩の対応など ・事例：子ども同士のケンカをどう仲裁するかなどです。 ・子どもが喧嘩をする場面でどのような対応をしてそれが子どもにとって友達関係をより良くする為のチャンスと捉えているという考えを聞いて少し喧嘩の考え方が変わりました。 ・喧嘩などのトラブル ・喧嘩の時の対応、保育士のやりがい ・子ども達の喧嘩で先生がどのように仲裁に入るのか知ることができた。
理解 一日の流れの	<ul style="list-style-type: none"> ・園の一日の流れを知る事ができて良かったです。 ・保育園の一日の流れ
手遊び歌等	<p>あそびと音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び歌や個人での発表。 ・手遊び歌の実技試験で保育室に見立て、手遊びを発表したとき ・手遊び歌や自分たちで作った替え歌を発表する時に、どんなふうにしたら子どもが興味を持つか、子どもの反応など
作り玩具	<p>低年齢児保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低年齢児向け玩具作り ・おもちゃ作成
(感想) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と安全：こどもの視点で考える事と子どもと信頼しあえること ・“授業での保育者の動きを考える時に視野が広がった。” ・〇〇保育園の園長先生のリモート授業。子どもたちには年齢に応じてわざと冒険させるという事

Ⅲ まとめと今後の展望

上述したアンケート調査の結果から、今年度の保育所見学学内実習には十分な教育的効果があったことが示された。保育所見学実習は、入学直後の学生が保育現場を知るために複数で向かう初めての体験であることを考えると、従来どおり、県内約 40 園の実習協力園に出向いて見学実習を行うことが望ましいと考えられる。保育現場を目の当たりにし、終日見学実習を行うなかで子どもと直接関わり、保育環境や保育内容を実際に観察したり、子どもと関わる楽しさを知ったりすることで、学生は保育者を目指す意識をより明確にしていく。そしてその初めての体験が、本学 2 年間の実習での学びにつながっていくのである。終息の見えないコロナ禍で、今後の保育所見学実習も実際の保育現場にて実施できるのか、判断が難しいところではあるが、昨年度からの学内実習の取り組みを振り返ってみると、2つの成果が見えてきた。

まずは、現場との連携・協働の強化である。従来の見学実習は、複数名の学生の受け入れを依頼し、見学実習の目的を理解した実習園からの内諾を受け、実施するという流れである。これだけでも十分に現場との連携は果たしているのだが、「学内実習」へと切り替えたことで、協力園との連携はより強固になった。各園の園長からは、実際の見学が叶わない分、「次世代を担う学生のためになるのなら」という思いで園の貴重な映像や写真が提供された。また、園長が自ら保育への思いを語ったり、先生方が学生に向けてのメッセージを送ったりするなど、「保育所見学学内実習」はまさに現場と協働して作り上げたといえる。協力園の園長や先生方の厚意に、心から感謝を述べたい。

もう一つは、今後の実習指導における「教材」としての活用である。保育所見学学内実習を実施するにあたり、より保育現場に近い体験が保障できるようにとの思いで、実際の保育現場の映像や写真を用いた教材作りを行った。このことは、もしもこの先も現場に出向くことが困難な状況が続いたとしても、学内において、見学実習の一日の流れや実習先との電話対応の方法、保育園の一日の観察などを、映像から体験的に学べる環境を作ることが可能である。ただし、今回のアンケート調査結果を見ると、それぞれの質問項目に対して「全くあてはまらない」と答えた学生も少なからずいたことから、教材作りにおいては、さらなる改善の余地があると考えている。それにより、今後、見学実習が現場で実施できることになっても、今回作成した教材を活用することで、「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ」の内容もより充実させていくことができるのではないだろうか。

筆者らは、昨年度そして今年度と積み重ねてきた保育所見学学内実習の実績をもとに、保育現場とのさらなる連携・協働を図りながら、学生にとって“保育現場を知る”第一歩となる保育所見学実習がより充実したものとなるよう、今後も検討を重ねて実施していきたい。

引用文献

- 1) 小川美由紀・久松尚美 (2021)「保育所見学学内実習」の实践と学び. 宮崎学園短期大学教育研究, 17. 24-31
- 2) 五味太郎 (1984)「わにさんどきつ はいしゃさんどきつ」. 偕成社
- 3) 宮崎学園短期大学 (2021)「実習の手引き」. 8